



失語症および認知症の コミュニケーション支援に関する研究

保健福祉学部 コミュニケーション障害学科
准教授 坊岡 峰子 (ぼうおか みねこ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 2514号室
Tel & FAX 0848-60-1190

専門分野： 言語聴覚障害学
拡大代替コミュニケーション (AAC)
キーワード： 失語症, 認知症, コミュニケーション障害
介護者支援, 拡大代替コミュニケーション (AAC)

● 現在の研究について

脳卒中の後遺症などによる失語症や認知症により、コミュニケーションになんらかの障害をもつ方（以下、コミュニケーション障害者）のコミュニケーション支援について研究をしています。

コミュニケーション障害は外見からはわかりにくく、その種類や適切な対応はあまり知られていません。また、コミュニケーション障害者の支援は、ご本人だけでなくご家族や介護者などの理解および支援技法の習得も重要となります。

支援の方法は、コミュニケーション障害者がことばで話せるようになるためのリハビリテーションだけでなく、障害されていない言語能力を活用することに注目した、拡大代替コミュニケーション（以下、AAC）手段の導入があります。つまり、失語症は話す・聞く・読む・書くの4側面に何らかの障害がありますが、文字だけでなく写真やシンボルなどの活用、ボタンを押せばメッセージが流れる音声発生装置（VOCA）と呼ばれるコミュニケーション機器、最近ではコミュニケーションを支援するアプリケーション（アプリ）の活用です。

また、記憶の低下がコミュニケーションに影響をおよぼす認知症のある方には、文字や写真、シンボルなどで視覚的に提示しながら話しをすすめるといった方法などもあります。

これらのAACを活用するためには、コミュニケーション障害者の認知・コミュニケーション能力を評価し、適切なコミュニケーション手段を導入していくことが重要となります。さらに、これらの手段を日常生活において実用的に活用していくためには、会話相手はその活用方法を理解し、

会話を促進できるスキルを習得していることが重要です。

以上のような点に注目し現在は、失語症や認知症がある方のコミュニケーションを支援することを目的に、ご本人のコミュニケーション能力から適切なコミュニケーション手段を明らかにする評価方法。さらに、その適切なコミュニケーション手段を活用するための、会話パートナーに対するトレーニング方法について研究しています。

また、AACのひとつとして、失語症者向け単語検索アプリの開発および活用に向けた検証を島根大学学術研究院理工学系廣富哲也研究室と合同ですすめています。

● 今後進めていきたい研究について

今後は現在の研究をさらに日常生活で実用化させていくために、使用者の生活に合わせたAACやパートナーのトレーニング方法の開発をすすめていきたいと思っています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

研究の目標は家族だけではなく、介護、福祉の実践現場で役立つ内容を提供していくことです。今後は特に介護現場の方々に協力して頂き、コミュニケーションの支援に結びつく実践的研究を進めていきたいです。

さらに、失語症のある方が気軽に集い、AACを活用しながらコミュニケーションを楽しめる場をご家族や地域の方々と協力してつくっていただければと思っています。

● これまでの連携実績

- ・失語症のある方とご家族が運営するサークルにおいて言語訓練および家族会支援。
- ・介護支援専門員や介護職者を対象とした、コミュニケーション支援に関する研修講師。
- ・安芸郡熊野町主催の介護予防教室、リーダー養成講座などの講師。